

ヨハネの第一の手紙

第一章

初めからあったもの、わたしたちが

聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について——このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである——すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。

わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。神と交わりをしていると言いなから、もし、やみの中を歩いていたら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っていないのではな

そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにない。

第二章

わたしの子たちよ。これらのことを

書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによつて彼を知っていることを悟るのである。彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによつて、わたしたちが彼にあることを知るのである。彼に「おる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。愛する者たちよ。わたしがあなたがたに書きおくる

のは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めである。その古い戒めとは、あなたがたがすでに聞いた御言である。しかし、新しい戒めを、あなたがたに書きおくるのである。そして、それは、彼にとってもあなたがたにとっても、真理なのである。なぜなら、やみは過ぎ去り、まことの光がすでに輝いてゐるからである。「光の中にいる」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にゐるのである。「兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまり、さういふことは、ない。二兄弟を憎む者は、やみの中にゐり、やみの中を歩くのであって、自分ではどこへ行くのかわからない。やみが彼の目を見えなくしたからである。

三子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。三父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者にうち勝ったからである。二子供たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが父を知ったからである。父たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。二五世と

世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。二六すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。二七世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

二八子供たちよ。今は終りの時である。あなたがたがかねて反キリストが来ると聞いていたように、今や多くの反キリストが現れてきた。それによって、今が終りの時であることを知る。一九彼らはわたしたちから出て行った。しかし、彼らはわたしたちに属する者ではなかったのである。もし属する者であつたなら、わたしたちと一緒にとどまっていたであらう。しかし、出て行ったのは、元来、彼らがみなわたしたちに属さない者であることが、明らかにされるためである。二〇しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。二一わたしは書きおくったのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。二三偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリストである。二四御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。二五初めから聞

いたことが、あなたがたのうちに、とどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたのうちにとどまっておれば、あなたがたも御子と父とのうちに、とどまることになる。二五これが、彼自らわたしたちに約束された約束であって、すなわち、永遠のいのちである。二六わたしは、あなたがたを惑わす者たちについて、これらのことを書きおくつた。二七あなたがたのうちに、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。

二八そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。二九彼の義なるかたであることがわかれば、義を行う者はみな彼から生れたものであることを、知るであらう。

第三章

一 わたしたちが神の子と呼ばれるため

には、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。二 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たち

が彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。三 彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。四 すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。五 あなたがたが知っているとおりの罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない。六 すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく、知ったこともない者である。七 子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。八 罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしるためである。九 すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。一〇 神の子と悪魔の子との区別は、これによって明らかである。すなわち、すべて義を行わない者は、神から出た者ではない。兄弟を愛さない者も、同様である。二 わたしたちは互に愛し合うべきである。これが、あなたがたの初めから聞いていたおとずれである。三 カインのようにになってはいけない。彼は悪しき者から出て、その兄弟を殺したのである。なぜ兄弟を殺したのか。彼のわざが悪く、その兄弟のわざは正しかったからである。

二三兄弟たちよ。世があなたがたを憎んでも、驚くには及ばない。二四わたしたちは、兄弟を愛しているのに、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。二五あなたがたが知っているのとおり、すべて兄弟を憎む者は人殺しであり、人殺しはすべて、そのうちに永遠のいのちをとどめてはいない。一六主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによつて、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。一七世の富を持つていながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあるうか。一八子たちはよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。一九それによつて、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。二〇なぜなら、たとえわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであつて、すべてをご存じだからである。二一愛する者たちよ。もし心に責められるようなことがなければ、わたしたちは神に対して確信を持つことができる。二三そして、願い求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである。二四その戒めというのは、

神の子イエス・キリストの御名を信じ、わたしたちに命じられたように、互に愛し合うべきことである。二五神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人になります。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によつて知るのである。第四 章 一愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。二あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとつてこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、三イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。四子たちよ。あなたがたは神から出た者であつて、彼らにうち勝つたのである。あなたがたのうちにいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである。五彼らは世から出たものである。だから、彼らは世のことを語り、世も彼らの言うことを聞くのである。六しかし、わたしたちは神から出たものである。神を知っている者は、わたしたちの言うことを聞き、神から出ない者は、わたしたちの言うことを聞かない。これによつて、わたしたちは、真理の霊と迷いの霊との區別を知るのである。

愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。愛さない者は、神を知らない。神は愛である。神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。一 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。二 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。三 神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいますし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。三 神が御霊をわたしたちに賜わったことによって、わたしたちが神におり、神がわたしたちにいますことを知る。四 わたしたちは、父が御子を世の救主としておつかわしになったのを見て、そのあかしをするのである。五 もし人が、イエスを神の子と告白すれば、神はその人のうちにいますし、その人は神のうちにいるのである。六 わたしたちは、神がわたしたちに対して持つておられる愛を知り、かつ信じている。神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、神も彼にいます。七 わたしたち

もこの世にあって彼のように生きていたので、さばきの日に確信を持つて立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。八 愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである。九 わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。一〇 神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。三 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

第五章 「すべてイエスのキリストであることを信じる者は、神から生れた者である。すべて生んで下さったかたを愛する者は、そのかたから生れた者をも愛するのである。二 神を愛してその戒めを行えば、それによってわたしたちは、神の子たちを愛していることを知るのである。三 神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。四 なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つかからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。五 世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか。六 このイエス・キリストは、水と血をとってこられたかたである。水によるだけではなく、水と血とによってこられたのであ

ヨハネの第一の手紙

る。そのあかしをするものは、御霊である。御霊は眞理だからである。七あかしをするものが、三つある。八御霊と水と血とである。そして、この三つのものは一致する。九わたしたちは人間のあかしを受け入れるが、しかし、神のあかしはさらにまさっている。神のあかしというのは、すなわち、御子について立てられたあかしである。一〇神の子を信じる者は、自分のうちにこのあかしを持つている。神を信じない者は、神を偽り者とする。神が御子についてあかしせられたそのあかしを、信じていないからである。二そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。三御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。四これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。五わたしたちが神に対していていっている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるということである。

一五そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞き入れて下さるとわかれれば、神に願い求めたことはすでにかなえられたことを、知るのである。一六もしだれかが死に至ることのない罪を犯している兄弟を見たら、神に願い求めなさい。そうすれば神は、死に至ることのない罪を犯している人々には、いのちを賜わるであらう。死に至る罪がある。これについては、願い求めよ、とは言わない。一七不義はすべて、罪である。しかし、死に至ることのない罪もある。

一八すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守って下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない。一九また、わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の配下にあることを、知っている。二〇さらに、神の子がきて、眞実なことを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている。そして、わたしたちは、眞実なかたにおり、御子イエス・キリストにおのである。このかたは眞実な神であり、永遠のいのちである。三子たちよ。気をつけて、偶像を避けなさい。